

淀城跡

(財)京都市埋蔵文化財研究所 尾藤徳行

1. 淀の位置

◎現在の淀は、河川改修の繰り返して、宇治川と桂川に挟まれた地域。

◎平安時代には、天王山と男山に挟まれた狭い地域で、桂川、宇治川、木津川の合流点と巨椋池の出口に形成された中州とその周辺が「淀」。「淀」は川が緩んでできたよどみを意味し、「淀川」もこの淀に由来。奈良や京都から大坂・瀬戸内海への水陸交通の要衝。

2. 淀の歴史

◎平安京と淀津

- ・文献記録では、『日本後紀』804年(延暦23年)7月23日条に初見「丙申。幸與等津。」(桓武天皇が淀津【淀の港】へ行幸する。)
 - 同年、最澄・空海が入唐。翌年、桓武天皇、崩御。
- ・与度(淀)の渡の30数軒が洪水で流された。【渡】とあり交通の要所。『日本三代実録』874年(貞観16年)
- ・京都から陸上で淀まで来て淀川を渡り、八幡から陸路、奈良へまっすぐ『枕草子』に記載。西暦1000年頃
- ・藤原薬子(くすこ)の乱の時、政府側は宇治と山崎の橋、「与度市津」に兵を置き、京都南部の東西防御線。『日本紀略』810年(大同5年)
- ・平安京の外港。(天皇の行幸から、淀津の成立は遅くとも9世紀初頭)
- ・水上交通・軍事の要所—淀川を下ると難波宮や瀬戸内海。
 - 瀬戸内海からの海舟の航路の終着点。
 - 木津川を遡ると木津・奈良へ
 - 長岡京、陸路や、船で鳥羽から陸路平安京
- ・位置は、巨椋池の北岸、桂川の東岸。今の納所付近か。

◎中世の淀津と淀城(淀古城)

- ・経済都市(港湾都市)としての淀津
 - ・宇治川、木津川、桂川、鴨川と巨椋池の結節点に当たる水・陸交通の要所。「淀十一艘船」
 - ・淀魚市では、瀬戸内海の魚介類を京都へ回す卸売市場。納所付近と推定。塩、米穀、木材等も取引。淀津で陸揚げされる。
 - ・政治都市(守護所)としての淀古城
 - ・平安時代には、検非違使の監督長の巡回地域。
- ↓
- ・承久の乱(1221年)、明徳の乱(1391年)などで戦場や軍勢の集結地。
- ↓

- ・京都の外港としての重要性増大。1418年一色氏の守護所となる。
- ・納所の淀古城は、郡代役所、守護所を兼ねる。
- ・戦国時代や豊臣氏の淀古城は、古代の淀津の位置を踏襲。
 - ・豊臣氏、大阪城と聚楽第を結ぶ地点として重視。
 - 1588年(天正16年)「淀古城」を造営。大坂街道として淀から大阪へ通じる陸路を整備。この大坂街道の一部を発掘調査で検出。(図21)伏見城の造営後、1594年(文禄3年)淀古城は廃城。淀堤によって囲まれ、港の機能も失う。
 - 元和9年以前の絵図(図4)では、納所に淀古城の記載。
- ・近世には、南方の現在の場所に造営され城下町となる。

◎近世の淀城

- ・桂川、宇治川と木津川に挟まれた川中の島に造営。(図6・7)
- ・1623年(元和9年)伏見城の廃城後、京都守護のため、山城国唯一の「淀藩」の居城として造営。初代、松平定綱以降、城主は譜代大名。1723年(享保8年)、稲葉正知が城主になり、幕末まで稲葉家が続く。
- ・1633年(寛永10年)、城主・永井尚政。毎年の洪水に悩み、1637年から木津川流路を付け替え、水害の防止とともに、新町が生まれ、城下町の拡張が行われた。(図9)
- ・天守台は1756年(宝暦6年)年、落雷で焼失。以後、再建されず。1977年以降の調査で、焼土で埋まった地下室状の石蔵を確認。
- ・淀下津町古記録(1697年・元禄10年)の納所の項に『淀伝馬数百疋・・淀役船数五百七艘、納所水垂』『過書船』(三十石船)「淀六ヶ町家数・寺院表では納所に約45%の566軒/全家数1267軒、寺数など10/24」とあることから、納所が中心集落で、馬や船があり、宿場・港町として水陸交通の要所の様子がうかがえる。
 - 図18の東海道五十三次駅図鑑で、淀小橋南詰めを中心に天守閣・京口門など描かれる。(調査24で門部分が出土。)
- ・1868年鳥羽・伏見の戦いで、淀城・城下町は焼け落ちた。淀城の石垣は木津川の川違えや淀川などの改修の石材に転用された。
- ・朝鮮通信使
 - ・朝鮮は、鎖国後も国交を結ぶ唯一の国。徳川家康、1607年(慶長12年)国交回復。12回来日。通信使には、対馬藩が随員。淀の唐人雁木から上陸。ソウルー対馬—壱岐—下関—鞆浦—牛窓—大坂—淀—京都—名古屋—江戸
 - ・水車で、淀城内の庭と花畠に水を汲み上げる。通信使使節の絵に残る。

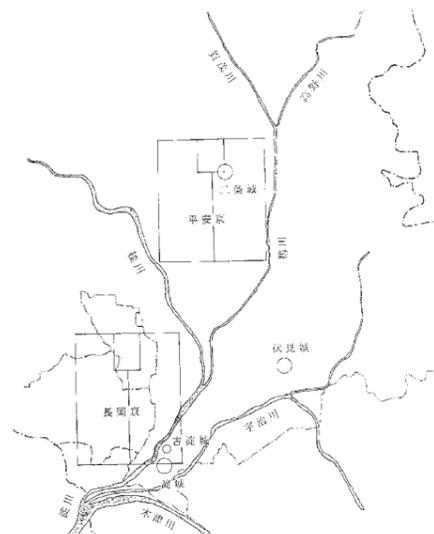


図1 古代都と淀の位置図

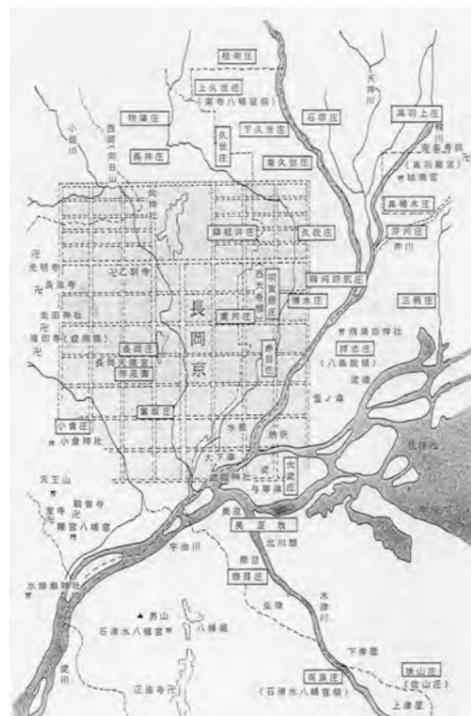


図2 長岡京と淀



図7 1637年(寛永14年)以前の淀城下町



図8 『笹井家本 洛外図屏風』淀城部分

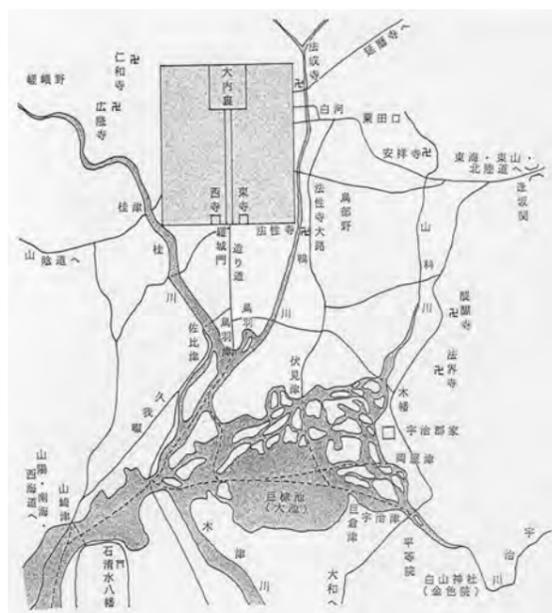


図3 平安京南部の交通路



図4 『笹井家本 洛外図屏風』納所部分



図9 1637年(寛永14年)以降の淀城下町

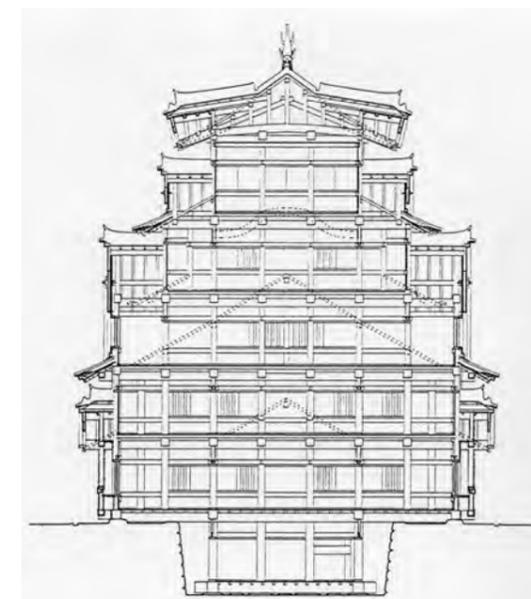


図10 淀城天守閣復元南北断面図

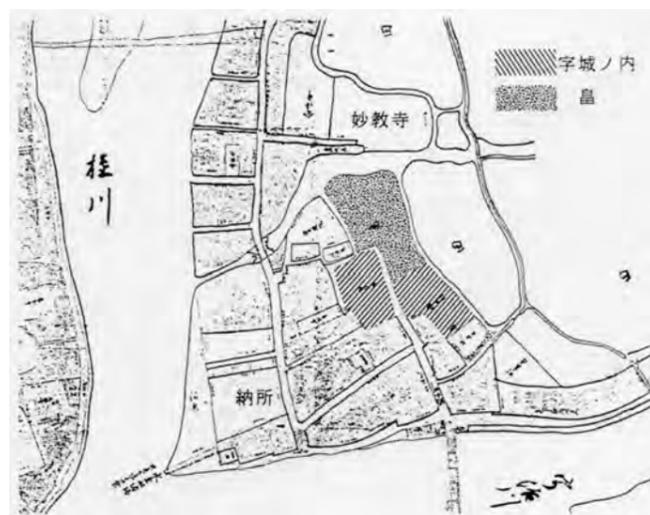


図5 『(淀城下全図)』納所部分

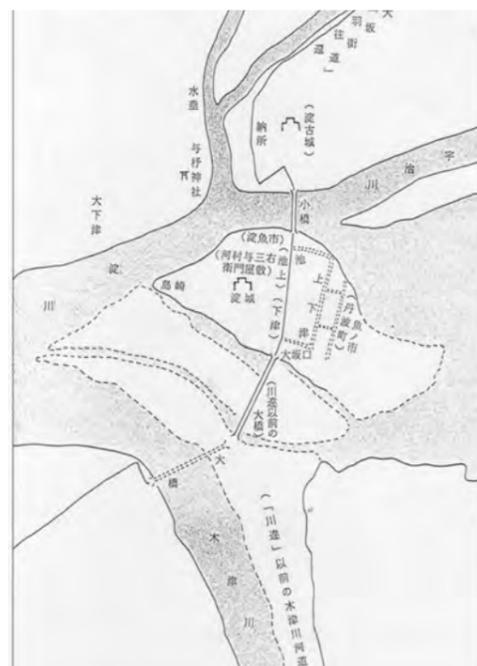


図6 1623年(元和9年)以前の淀

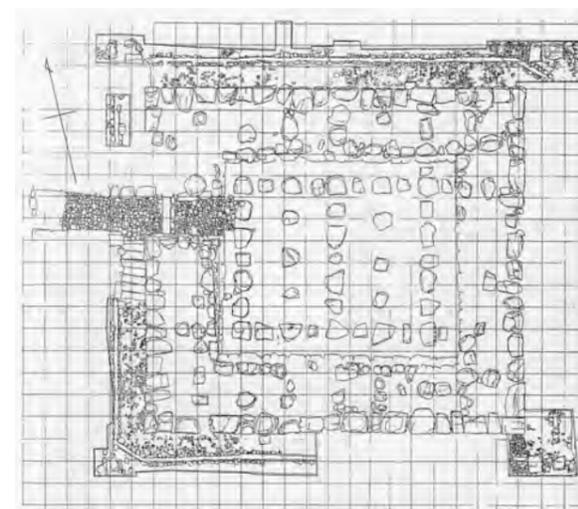


図11 天守台石垣平面図



図12 天守台石垣(北東から)

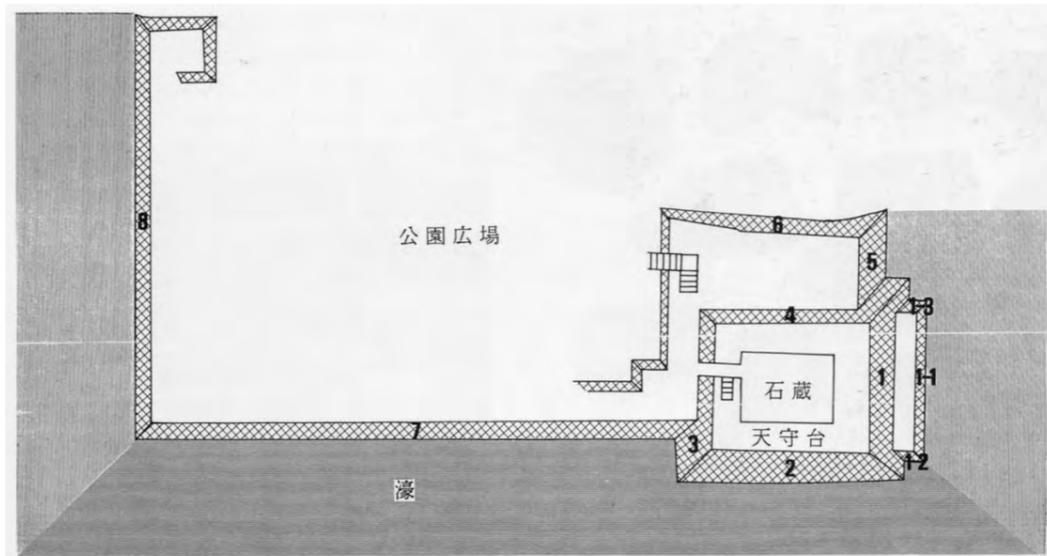


図13 天守台石垣分布図



図14 朝鮮通信使の来朝ルート

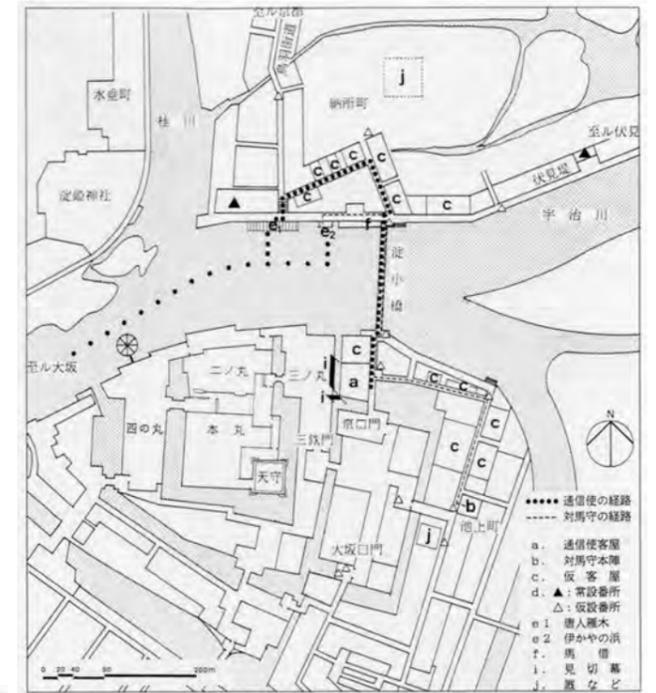


図15 淀城下使節分布図

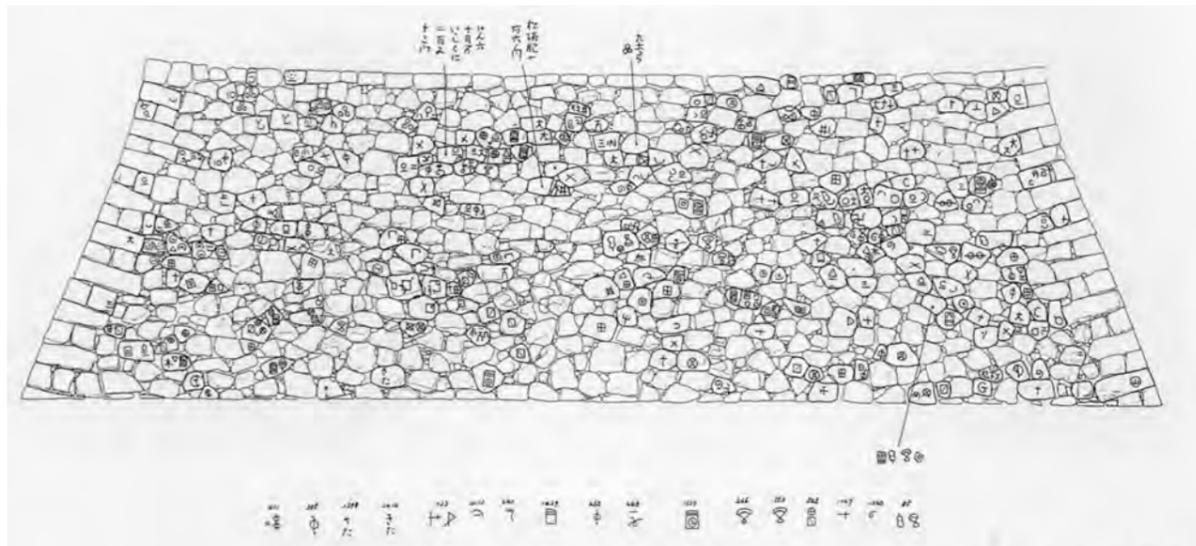


図14 天守台西面の石垣3の刻印調査図
(解体修理時のもので、外面以外の刻印も記録。)

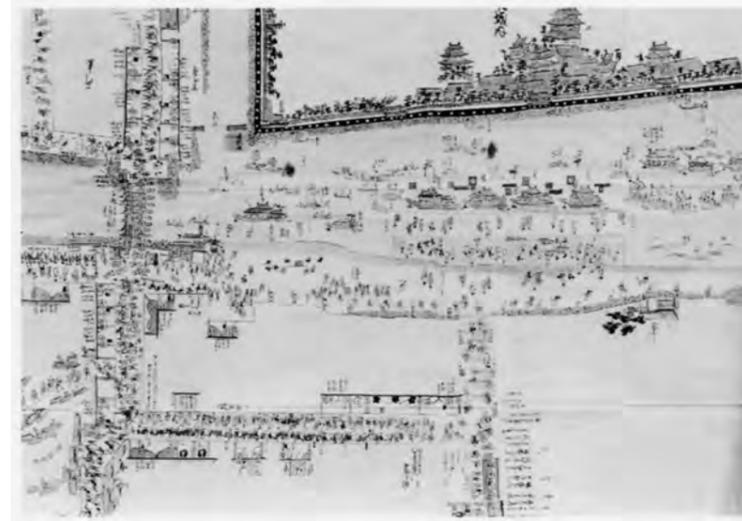


図16 唐人雁木から淀小橋付近



図18 『東海道五十三駅図鑑』淀



図17 城外水車の図

淀周辺関連年表

延暦二十三年(八〇四)	桓武天皇が「与等津」へ行幸する。『日本後紀』(「淀」の初見)
大同五年(八一〇)	薬子の変に際し、淀市津に頓兵が置かれる。『日本紀略』
貞観十六年(八七四)	淀渡口廻りの人家、三十余軒洪水で流失。
寛弘六年(一〇〇九)	このころ東西淀に分かれる。
仁安三年(一一六八)	「昨今淀渡舟毛三板越庄々問男、各四五艘沙汰獻上」(「兵範記」) この頃には「問男」と呼ばれる輸送業者が存在していた。
文治四年(一一八八)	「鳥羽南樓、并草津邊、依河水淺不能付船、仍於魚市乘船」(「玉葉」) 九条兼実が京都から大坂天王寺へ行く際に桂川が濁水のため、淀「魚市」から船に乗り向島へ渡った。
仁治三年(一二四二)	淀津に念仏道場できる。
寛元年間(一二四三～四七)	淀納所と中島が淀小橋で結ばれる。(「山城淀下津町記録」)
応長元年(一二三一)	淀の魚の市で為替が用いられる。(「庭訓往来」)
永正元年(二五〇四)	薬師寺元一、主君細川政元に反し淀の城に拠る。(「細川両家記」)
永禄二年(二五五九)	管領細川氏綱、淀の城に入る。(「細川両家記」)
元亀年間(二五七〇～七三)	岩成友通、淀の城に入る。(「細川両家記」)
元龜三年(二五七二)	織田信長の將細川藤孝(幽齋)、淀城を攻撃する。
天正一〇年(二五八二)	本能寺の変、明智軍の前線基地となる。
天正一五年(二五八七)	豊臣秀吉、聚落第完成。
天正一六年(二五八八)	豊臣秀吉、淀に築城を命じる(淀君の淀城)。
天正一七年(二五八九)	翌一七年三月、淀君の淀城修築なる。九月、淀君、大坂城へ移る。
文祿元年(二五九二)	伏見指月城起工。
文祿三年(二五九四)	淀君の淀城破却。
慶長元年(二五九六)	慶長大地震で伏見指月城倒壊。
慶長二年(二五九七)	伏見城天守完成。
慶長三年(二五九八)	豊臣秀吉、納所の河村与三右衛門・木村宗右衛門に朱印を与え、淀船支配を命ずる。(過書座二十石船由緒書)
慶長三年(二五九八)	豊臣秀吉、伏見城で没。
慶長五年(二六〇〇)	伏見城、関ヶ原の戦いで焼失。

慶長六年(二六〇一)	徳川家康、伏見城復興。
慶長一二年(二六〇七)	豊臣秀頼、与杆神社再興(昭和五〇年、本殿焼失)。
慶長一四年(二六一四)	大坂冬の陣、翌年の夏の陣で淀船活躍。
元和元年(二六一五)	大坂城落城。
元和九年(二六二三)	伏見城破却。松平定綱、入封(三万五千石)、淀城築城開始。
寛永三年(二六二六)	淀城完成。八月、秀忠・家光、上洛時に淀城に入る。
寛永一〇年(二六三三)	永井尚政、一〇万石で入封。
寛永一二年(二六三四)	閏七月、家光、上洛時に淀城に入る。
寛永一四年(二六三七)	木津川川違えと城下町の拡張(翌一五年まで)。
寛文九年(二六六九)	石川憲之、六万石で入封。木津川川違えと城下町の拡張。
元禄四年(二六九一)	ケンベル、淀を通過、『江戸参府旅行記』。
宝永八年(二七一〇)	戸田光熙、六万石で入封。
享保二年(二七一七)	松平乗邑、六万石で入封。
享保八年(二七二三)	稲葉正知、十万二千石で入封。
延享五年(二七四八)	第一〇回朝鮮聘礼使来朝。渡辺善右衛門守業により「朝鮮人來朝記」著される。
宝暦六年(二七五六)	元和築城天守落雷にて焼失。
安永三年(二七七四)	九月、城大破する。
万延元年(二八六〇)	藩校明親館、淀城内に開校。
慶応四年(二八六八)	鳥羽伏見の戦いで敗走する幕府軍の入城を拒み、城下炎上する。
明治元年(二八六八)	洪水後の災害復旧で京都府・淀藩合同で木津川川違え行われる。(明治三年)
明治四年(二八七二)	七月、廃藩置県に伴う淀県成立。一月、京都府に編入。
明治七年(二八七四)	オランダ人御雇い外国人工師デレーケらによる淀付近河川美測。
明治七年(二八七四)	旧淀城石垣解体始まる。石垣は淀川河川改修に流用。淀裁判所計画。
明治八年(二八七五)	旧淀城地所及び石垣出張土木局へ引き渡す。
明治一一年(二八七八)	宇治川拡幅に伴う淀小橋延長・二ノ丸解体・池上町屋敷撤去。
明治一二年(二八八〇)	淀川改良工事始まる。宇治川付け替え、桂川拡幅が行われる。
明治一五年(二九〇二)	桂川拡幅に伴う与杆神社の遷宮と水垂・大下津町の集落移転。
明治三三年(二九一〇)	京阪電気鉄道開通(大阪天満橋～京都五条)。
大正一三年(二九二四)	淀競馬場開設(船井郡須知より移転)。
昭和三年(一九五七)	淀町、京都市伏見区に編入。

3. 発掘調査では

- 長岡京跡・・・旧条坊案では長岡京左京九条三・四坊に含まれていた。新条坊案では京城全体が二町北へ引き上げられ、京城から外れる。発掘調査では検出されていない。
- 中世の遺構の検出例は少ない。淀古城での調査はなく、豊臣氏の淀古城は明らかでない。京阪電鉄京都線の高架事業に伴う発掘調査などで、桃山時代から江戸時代初期の大坂街道路面、町屋跡、井戸、石垣、柱穴・柱礎石などを検出。(図17の調査17・19・21・23・24・26) 遺物は、16世紀末から江戸時代初期の土師器皿、瓦器碗、瀬戸美濃灰釉皿・天目碗・水滴などが出土。平安時代から室町時代の遺物が混入して出土している。地表下1～2m以下で桃山期の遺構面となるが、周辺か、より深いところに、より古い遺構の存在が考えられる。
- 江戸時代の遺構は、淀城の石垣、堀、土坑、井戸、礎石列、布堀基礎、階段状石列などを検出している。(図16のほとんどで検出されている。) 江戸時代の遺構面は後世の削平を受けている。明治時代に石垣上部が壊されて下部が残っていることを確認。主要遺構は、
A 2区では、内高島の住居跡から柱列、土坑、遺物を検出。
B 1区では、石垣と堀、集石を検出。
B 2区では、布堀基礎で南北約24m、東西約8mの規模を持つ建物や井戸などを検出。
B 3区・B 4区では、石垣と堀、石列を検出。
B 5区では、石垣と堀、集水枡が取り付く石製U字溝などを検出。
C 1区では、路面状整地層、階段状石列と堀などを検出。
C 2区では、路面状整地層と石垣を検出。
調査13・14・17では、布堀基礎に礎石が伴う東西40m、南北8mの土蔵跡を検出。図8などにみられる米蔵の基礎と考えられる。
調査24では、角櫓と考えられる石垣と門礎石(京口門)などを検出。

参考文献

図1～19は「西川幸治編『淀の歴史と文化』淀観光協会 1994年」の図を一部修正・引用。図20～22・24・25、表1は調査26、図23は調査23から一部修正・引用。



図19 空から見た淀周辺

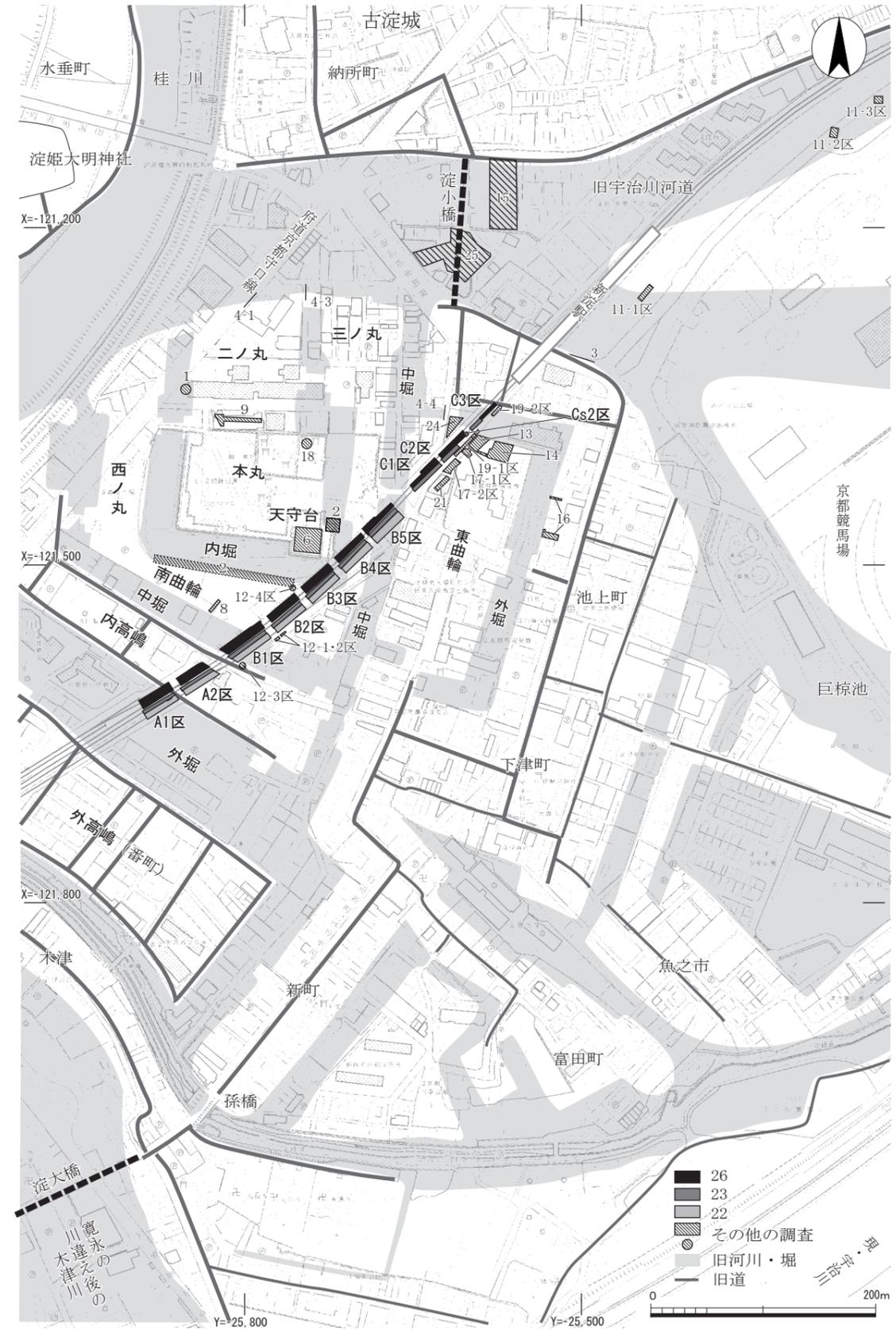


図20 淀城下町復元図および周辺主要調査地位置図 (1 : 5,000)

表1 調査一覧表

調査番号	調査地点	調査種類	調査機関	所在地	調査期間	面積(㎡)	主な成果	文献番号
1	二ノ丸西側内堀	試掘		淀本町	1976.12		二ノ丸西側の内堀東辺の石垣検出。	6の表23-1
2	本丸天守台、内堀南辺石垣	立会・試掘、石垣調査	淀城跡調査団	淀城跡公園	1977.8~9 1978.3~5		天守台4面石垣立面図作成。天守台南西隅を試掘、石蔵の存在を確認。北東角を試掘大走りの状況を確認。内堀南辺の石垣を検出(A~F)。	1
3	城下北端部	立会		淀池上町地内	1984.6~		北面する石垣を検出、旧宇治川の護岸石垣か?	6の表23-7
4	二ノ丸北端部	立会		淀本町ほか	1984.8~		4-1・3人頭大の集石を検出、旧宇治川の護岸石垣か? 4-4東西方向の石垣検出。	6の表23-8
5	本丸屋敷南西隅櫓台	立会		淀城跡公園	1986.8~10		石垣改修工事に伴っての立会調査	1
6	本丸天守台、西・南・天守台石垣	発掘、石垣石材調査	淀城跡調査団	淀城跡公園	1987.7.30 ~11.15		天守台：石蔵(地下室)の存在明らかになり、柱礎石などを検出。全面が著しく焼けている(宝暦6年の落雷)。石垣調査：全面の石材計測・図化と刻印・墨書などの有無の確認。	2~4
7	本丸天守台	石垣改修工事	市建設緑地部	淀城跡公園	1989.8 ~1990.3		天守台の四周石垣の積替え改修工事が実施された。	5
8	内堀・内高嶋	試掘	市埋文研	淀本町174-62、148-1	1990.10.1	36.4	内堀および、北面する内高嶋南辺の石垣。	6
9	本丸北側	試掘	市埋文セ	淀本町173-10	1996.2.7~9	129	本丸と二ノ丸の境界となる逆「L」字状の石垣を検出。	7
10	城外北西部	試掘	市埋文研	葭島渡場町32(京都競馬場内)	1998.3.3 ~4.21	300	5箇所の調査区。GL-2mまで現代盛土、以下湿地状堆積。	8
11	城外北西部	試掘	市埋文研	納所町(京都競馬場北西外周道路)	1999.8.16 ~9.3	115	3箇所の調査区。GL-2mまで現代盛土、以下1区では時期不明遺構面、2・3区では流路・湿地状堆積。	9
12	南曲輪、内高嶋、内堀、中堀	試掘	市埋文セ	淀池上町(京阪電鉄構内)	2003.2.17、 11.10・13	22	1区：土坑、2区：内高嶋相当部で東西方向石垣、3区：中堀南辺の石垣、4区：内堀南辺の石垣裏込め	10
13	東曲輪	発掘	市埋文研	淀池上町地内	2003.11.7 ~2004.1.19	200	14の西側。淀城期：布掘基礎建物の西延長部検出。	11
14	東曲輪	発掘	市埋文研	淀池上町	2003.11.13 ~2004.1.21	280	淀城期：布掘基礎の長大な建物(土蔵)を検出、絵図などにみられる「米蔵」に相当すると考えられる。	12
15	旧宇治川河道	試掘	市埋文セ	納所町560-1ほか	2003.12.25	33	3箇所の調査区。GL-2mまで現代盛土、以下流路・湿地状堆積。	13
16	東曲輪外堀東	試掘	市埋文セ	淀池上町38ほか	2004.10.14	14	2箇所の調査区。淀城期：1区で外堀に直交する東西方向の石垣、外堀に連結する小規模な堀か。	14
17	東曲輪	発掘	市埋文研	淀池上町地内	2004.11.30 ~2005.3.2	130	2箇所の調査区。淀城期：布掘基礎建物の南西角部、その西の石垣、東曲輪の路面状整地。淀城以前：町屋関連建物・カマド、井戸	12
18	本丸北東部	試掘	市文保課	淀本町167 興梓神社境内	2006.4.26	3	境内北辺・東辺の石垣が淀城期のものであると確認。	15
19	東曲輪	発掘	市埋文研	淀池上町地内	2006.5.8 ~6.13	116	2箇所の調査区。淀城期：東曲輪の区画に関する石垣(石列)、井戸など	16
20	本丸北西部城内	試掘	市文保課	淀木津町 ~納所下野(京阪電鉄構内)	2006.5.9	28	淀城期：焼土層・溝・整地層など確認。⇒発掘調査を指導。	15
21	東曲輪	発掘	市埋文研	淀池上町地内	2006.6.14 ~7.11	64	東曲輪にあたるが、淀城期の遺構残存せず。淀城以前：大坂街道の路面・石列、町屋関連の柱穴など	17
22	本丸北西部城内	発掘	市埋文研	淀池上町地内(京阪電鉄構内)	2006.8.21 ~2007.2.28	1350	A1~2・B1~5区の7箇所の調査区。	18
23	本丸北西部城内	発掘	市埋文研	淀池上町地内(京阪電鉄構内)	2010.2.15 ~8.31	980	A1~2・B1~5・C1~3・Cs2区の11箇所の調査区。	19
24	東曲輪	発掘	市埋文研	淀池上町地内	2011.2.22 ~3.31	115	淀城期：東曲輪における石垣(角櫓)門礎石(京口門)、中堀。淀城以前：大坂街道およびこれに伴う境界石列、面する建物礎石列など	20
25	旧宇治川河道	試掘	市文保課	淀本町215-2ほか	2011.4.6	28.3	3箇所の調査区。GL-1.2mまで現代盛土。以下流路・湿地状堆積。	
26	本丸北西部城内	発掘	市埋文研	淀木津町・下津町地内(京阪電鉄構内)	2011.9.22 ~12.7	1727	A1~2・B1~5・C1~3区の10箇所の調査区。	21

※ 調査機関については、以下のように略記した。
 京都市建設局公園緑地部：市建設緑地部。京都市埋蔵文化財調査センター：市埋文セ。
 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課：市文保課。(財)京都市埋蔵文化財研究所：市埋文研。
 ※ 調査番号22・23・26については、煩雑さを避けるため、図8には共通する調査区名のみを表示した。

関連文献一覧表(番号は表1の文献番号に一致)

- 1 星野猷二・三木善則『器瓦録想 其三 淀城』伏見城研究会 2007年2月
- 2 星野猷二・藤井重夫『淀城跡調査概要・(淀城跡・天守台調査概報)』京都市建設局公園管理課・淀城跡調査団(伏見城研究会) 1988年3月
- 3 江谷寛「発掘から見た淀城天守閣」『淀の歴史と文化』淀観光協会 1998年9月
- 4 藤井重夫「石垣に残る刻印」『淀の歴史と文化』淀観光協会 1998年9月
- 5 中村石材工業株式会社『淀城跡公園石垣改修工事報告書』京都市建設局公園緑地部 1990年8月
- 6 久世康博「淀城跡(TB29)」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』京都市文化観光局 1991年3月
- 7 馬瀬智光「淀城跡 No.21」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成8年度』京都市文化市民局 1997年3月
- 8 吉崎伸「長岡京左京九条四坊」『平成10年 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所、2000年3月
- 9 上村和直「長岡京左京九条四坊」『平成11年 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所、2002年6月
- 10 馬瀬智光「長岡京跡・淀城跡 No.17」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年3月
- 11 内田好昭「長岡京跡・淀城跡(2次・3次調査)」『長岡京跡・淀城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2006-3 2006年6月
- 12 内田好昭『長岡京跡・淀城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2003-13 2004年3月
- 13 「試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成15年度』京都市文化市民局 2004年3月
- 14 馬瀬智光「長岡京跡・淀城跡 No.102」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成16年度』京都市文化市民局 2005年3月
- 15 「試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年3月
- 16 尾藤德行「長岡京跡・淀城跡(4次調査)」『長岡京跡・淀城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2006-3 2006年6月
- 17 尾藤德行「長岡京跡・淀城跡(5次調査)」『長岡京跡・淀城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2006-23 2007年3月
- 18 尾藤德行・丸川義弘・能芝勉「淀城跡(6次調査)」『長岡京跡・淀城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2006-23 2007年3月
- 19 尾藤德行・長戸満男・南出俊彦『長岡京跡・淀城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2010-7 2010年9月
- 20 尾藤德行『長岡京跡・淀城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2010-17 2011年5月
- 21 高橋 潔・菅田 薫・竜子正彦『長岡京跡・淀城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2011-7 2012年3月

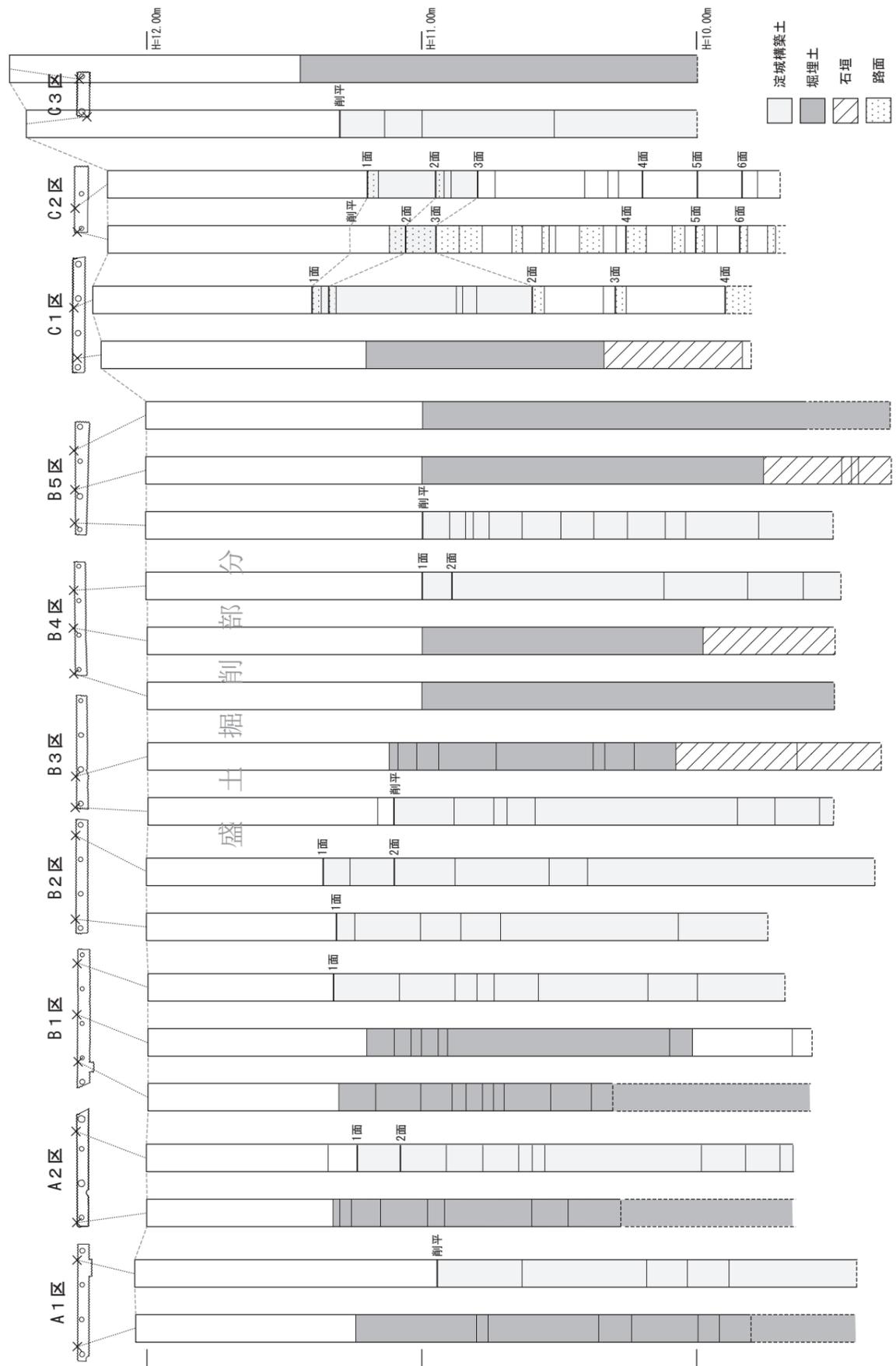


図23 調査23の各調査区断面柱状図（高さは、1：20）

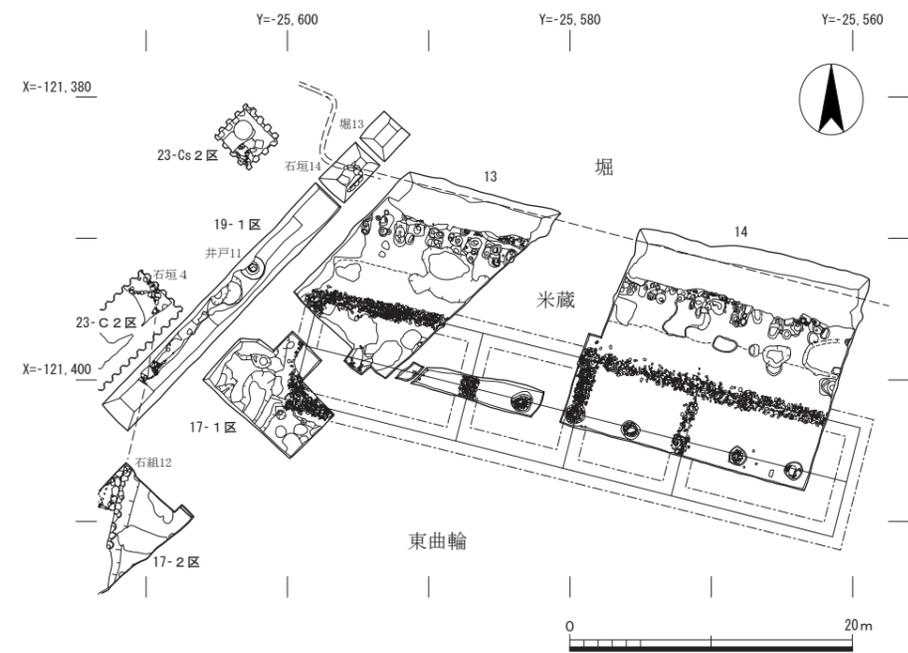


図24 淀城米蔵（調査13・14・17）（1：500）

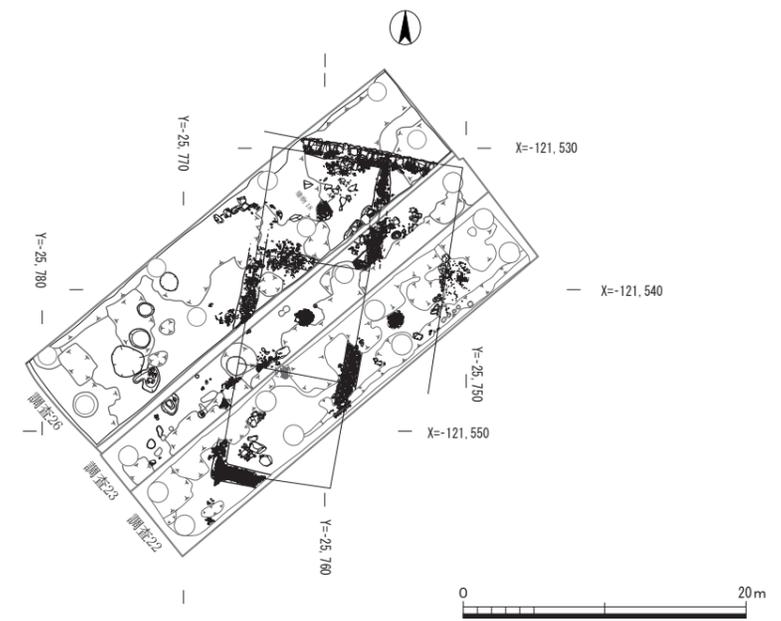


図25 淀城蔵（調査22・23・26のB2区）（1：500）